



いつもと違う雰囲気のカンパス

文&写真

学生記者

山田俊輔 (法学部4年)

10月23日、ホームカミングデー。私の一番の目的は中大OB新海誠監督のスペシャルトークイベント&作品上映会である。

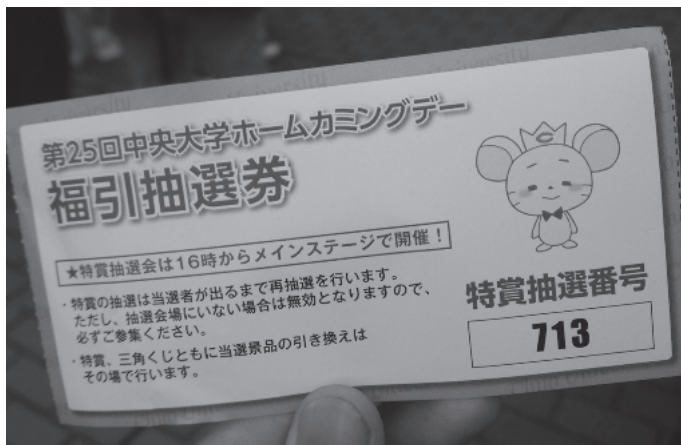
多摩モノレール駅から9号館へ向かう。エントランスホールを抜けると晴れ渡った空と「ホームカミングデー」の看板が見える。上着を1枚脱いで、白門プロムナードを渡り、看板をくぐる頃には、やんわり汗をかいていた。

普段なら20歳前後の若者で溢れるキャンパスに、年長の先輩方の姿が多数見られた。いつもと違う場所のようだった。

ペDESTリアンデッキ(遊歩道)下では、中大グッズが売られていた。行列の長さ強い愛校心を感じた。生協のグッズ売り場に足を止めることは少ないが、この日ばかりは目を惹かれてしまう。名刺入れを買った。

ペデ上では、全国から結集した先輩方が模擬店を開いていた。「ロスアンゼルス」の旗を見たときに

残念だった福引券



は驚いた。

気付けば、スペシャルトークの時刻が近づいている。急いで会場へ。既に500人を超える列ができおり、私たちが並んでからもどんどん列は伸びていった。

開場となり、いよいよ新海先輩の入場だ。話を聞いていると、作品の印象からもうかがえる繊細さと優しい印象を受けた。

質問タイムには在校生やシニアなど各世代から様々な質問が寄せられた。

新海監督が「最もうれしい！」と言った瞬間があった。小学校5年生の女兒が立ち上がって話した。「クラスの友達みんなが映画を見て、大好きと言っています」

監督作品では、我々が普段何気なく目にしているものが非常に美しく描かれる。女兒の素直な感想は、監督の心に刺さったようで、監督作品の原点を垣間見たような気がした。

トークイベントは予定した時間を過ぎるほど加熱した。終了後、イベント最後の福引抽選会場へ急いだ。狙いはもちろん特等だ。

日頃の行いのせいなのか、何も当たらなかった。もう一度、抽選番号を見てみると「713」、「ないさ」と読める。来年はOBとしてリベンジしたい。



購入した名刺入れ